



作家は変わり続ける存在だと語るキム・ヨンス氏

キム・ヨンス●韓国慶尚北道金泉生まれ。成均館大学校英語英文学卒。在学中の1993年に詩「江華について」で登壇。以来、長編小説等を次々と発表。長編小説『グッドバイ李箱』で2001年東西文学賞、小説集『私がまだ子供だったとき』で2003年東仁文学賞を受賞。著書に長編小説『愛だなんて、ソニョン』、散文集『青春の文章』があるほか、短編集『私は幽霊作家です』と長編小説『夜はうたう』が近刊予定
撮影：高木厚子



日韓友情年 2005

日韓文化交流の年
語りあふ未来へ、一緒に世界へ

韓国新世代作家がつむぐ歴史と記憶

Person キム・ヨンス

●作家（韓国）

韓国の新世代作家を代表するキム・ヨンス氏が、国際交流基金（ジャパンファウンデーション）の招へいで来日した。開高健記念アジア作家講演会シリーズとして、滞在中の2月15日から16日間に、福岡、大阪、東京、仙台、札幌で講演を行ない、自身の歩みや作品、文学観についてユーモアを交えながら語った。韓国で1990年代に文壇に登場した新世代作家は、軽快な想像力と感受性、繊細な感覚表現、表現の率直さ、大胆さなどで知られる。キム氏は80年代の民主化運動が収束するなかで、イデオロギーに対する不信やニヒリズムを漂わせた作品を次々に発表し、注目を浴びた。現在は、記憶の中にある個人と民族の歴史をテーマに、精力的に執筆活動が続けている。

滞在中に行なわれた作家の野中柀氏との対談（60ページ参照）では、キム氏の自伝的小説である短編「ニューヨーク製菓店」を取り上げながら、両作家の生い立ちや登壇時の秘話から作家としての姿勢について語り、「書くことは魂を磨くことである」と、共感に満ちた対話となった。